

# 那覇西 盤石3連覇

## 県高校新人

県高校新人体育大会は8日、各地で2競技を行い、ハンドボールの女子決勝は那覇西が浦添を30-21で制し、3年連続15度目の優勝を飾った。男子決勝は興南が那覇西に35-18で快勝した。優勝は14年連続34度目。自転車はエムフレオ・トシアキ(北中城)が男子ケイリン、同スプリント、スクラッチを制し、初日の1キタイムトライアル、団体追い抜きと合わせて5冠に輝いた。女子は池原杏(同)が個人追い抜き(2ホ)、スプリント、スクラッチで優勝した。(自転車記録は後日掲載します)

## ハンドボール

【男子】

▽3位決定戦

コ サ 35-9 西原

▽決勝

興南 35(18)17(9) 9 18 那覇西

【女子】

▽3位決定戦

コ サ 33-14 浦里

▽決勝

那覇西 30(15)15(7) 14 21 浦添

# 前半で大差 終始有利に



## ハイライト

女子決勝は前半で浦添にダブルスコアをつけた那覇西が、30-21で制して3連覇を飾った。リードを許さずに終始試合を有利に進めたが、比嘉監督は「ミスが多く、取り組んできたことが発揮できていない」と渋い表情だった。横一線の守備から逆速攻が持ち味。身長が低い为上が

ら打たれないよう、フリースローラインより内側に相手を入れないことを意識した。だが、金城選手主将は「飛び出しが遅く、走り出しが合わなかった。守備から速攻の流れを継続できなかった」と反省する。

本一を目指すから」と意は高い。一方だけが重なり、約1年ぶりの出場となった金城菜々が両チーム最多の7得点と存在感を示した。「思っている動きができなかった」とまだ本調子ではないが、「7番としてチームに何か一つでも貢献したい」。決意を新たに、さらなるレベルアップを誓った。

女子決勝 那覇西-浦添 前半、那覇西の砂川菜穂が15点目のシュートを決める。比嘉監督(右)と社会体育館(金城健太撮影)



女子優勝の那覇西

# 興南圧勝 14連覇

## 全国へ 攻守の精度向上誓う



男子優勝の興南

2018年に中学で全国3冠を達成したメンバーを多くそろえる男子興南が、那覇西に35-18で圧勝した。14連覇と他校を寄せ付けない強さを誇るが、黒島宣昭監督は「久しぶりの大会で緊張した部分もあったのか、練習でやってきたことを出せない選手もいたね」と苦笑いした。右45度にセンターバックと、フロアター陣の屋台骨でもある伊禮颯雅主将は「大事なところでシュートミスがあった」と振り返る。チームとして、速攻の場面でシュートを外し、逆速攻を食らってピンチを招いた。「3-2-1」の激しい守備を最大限に生かすためにも、シュート精度の向上は課題となる。

ポストとして体を張った根間光裕も「シュートの決定率を上げたい」と語り、課題は共有できている様子。「全国制覇が目標。今のままではできない。守備も攻撃も精度を高めたい」と力を込めた。

